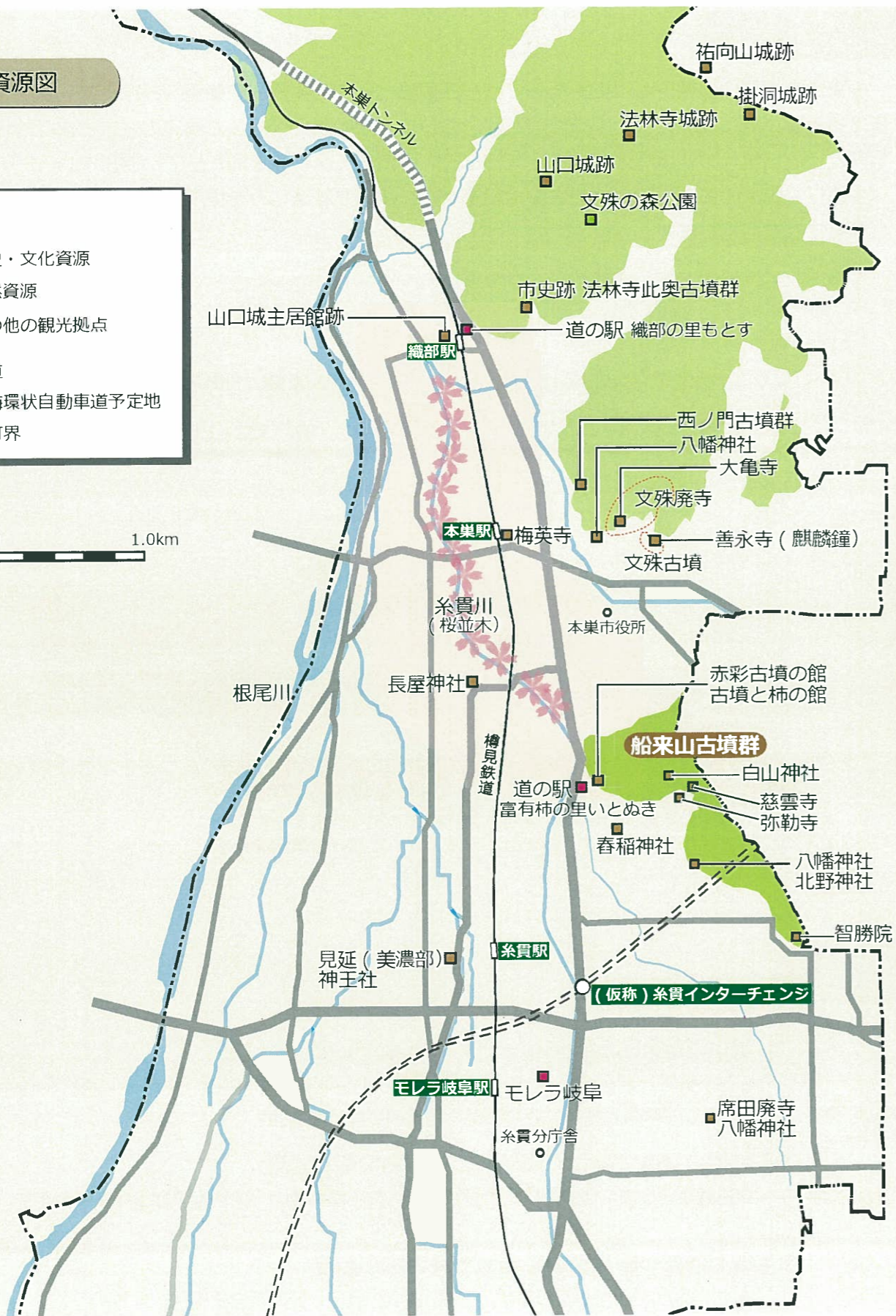


周辺資源図

- 凡例
- 歴史・文化資源
  - 自然資源
  - その他の観光拠点
  - 鉄道
  - == 東海環状自動車道予定地
  - - - 市町界



船来山古墳群



- 船来山は、濃尾山地の南端から独立する東西約2km、南北約600m、標高116.5mの小丘陵です。山頂からは濃尾平野を一望でき、養老山脈から名古屋方面まで見渡すことができます。
- 船来山周辺は富有柿の畑や水田、席田用水が流れる風情ある農景観が広がっています。
- 船来山を東海環状自動車道がトンネルで横断する計画があり、(仮称)糸貫インターチェンジが整備されると広域からもアクセスしやすくなります。

【問合せ先】 本巢市教育委員会社会教育課  
 電話番号 058-323-7764 ファックス番号 058-323-2964

※この印刷物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

船来山古墳群保存活用基本構想  
概要版



船来山古墳群 鳥瞰図

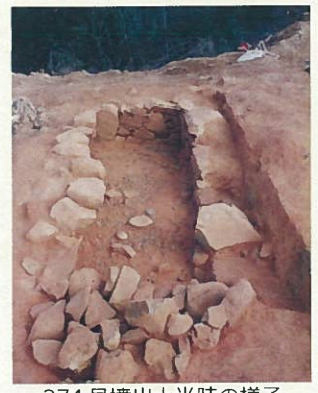
船来山古墳群の特徴



- 濃尾平野が一望できる独立丘陵に290基もの圧倒的な数の古墳が群集した東海地方で最大級の古墳群です。
- 3世紀中頃から7世紀まで古墳時代を通じて同一丘陵上に古墳が次々と築造されました。

- 前期 複数の首長が異なる墳形で、視覚的なモニュメントとして首長墓を築造しました。(前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳など)
- 中期 古墳の数は激減し、場所も限定的に築造されました。(帆立貝形古墳など)
- 後期 広域の有力家族層が、爆発的に古墳(小型円墳)を築造し、群集墳を形成しました。赤彩古墳に代表される豪華な副葬品を伴う古墳や、極めてバラエティに富んだ石室の形態がみられます。(竪穴式横口式石室、横穴式石室の無袖式・両袖式・片袖式など)

- 豪華で多彩、圧倒的な数を誇る副葬品が出土しています。(市指定有形文化財の船来山古墳群出土品 8,779点)



121号墳出土 三足壺 58号墳 現在の様子 24号墳 出土 鏡や銅鏃、玉類など 赤彩古墳 272号墳出土 須恵器 274号墳出土当時の様子 98号墳出土 方形板葺短甲

## 船来山古墳群の本質的価値

- 前期から後期に至るまでの古墳群の変遷をたどることができ、特徴的な古墳の形態や豪華な副葬品などから、当時の中央政権や朝鮮半島、中国大陸との交流など、当時の本巢地域の社会情勢を知ることができます。
- 同時期でも異なる形で造られた墳丘やバラエティに富んだ石室の形態がみられ、古墳の様式等の日本の古墳研究の指標となります。
- 船来山にまともって残存する古墳と大量の出土品は、本巢の地域に古墳時代から文化が存在していたことを伝える物証として稀有な存在です。

⇒ 歴史を知る上での貴重な史料

⇒ 古墳研究の学術上の史料

⇒ 古墳時代の文化的伝統あるいは文化の存在を伝承する物証

## 様々な視点からの価値評価

船来山や周辺地域には、古墳群としての価値以外にも様々な視点から価値評価することができます。

### 【船来山古墳群の時代区分と各時代の価値評価】

時代区分	古代				中世			近世	近代		現代		
	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成
評価軸	古墳群としての価値												
	舟材調達地としての価値 「禁処」(天皇の独占空間)、船木部												
	信仰の山としての価値 弥勒廃寺、春稻神社、慈雲寺、白山神社、智勝院、北野神社、八幡神社												
	名所としての価値				美濃守護土岐氏の山城としての価値								
	歌枕としての価値				名古屋城築城石切り場としての価値								
	里山・産業の場としての価値											緑地・景観としての価値	
	緑地・景観としての価値												

船来山周辺は、古くより大河川(旧糸貴川)と、その扇状地の地形的条件の中で、様々な土地利用や機能が変遷してきました。

特に古代は、水陸交通の要所という立地で、中央政権の影響を強く受けた政治・経済の中心地だった可能性が高いといわれています。

大河川の氾濫原が作り出したこの地域の自然は、中世を中心に歌枕として都の文化に組み込まれました。

河道の変化や用水路の発達にともない、現在まで続く農産物の生産地として、また旧河道を活かした商工業の中心地として発達し、街が形成されてきました。

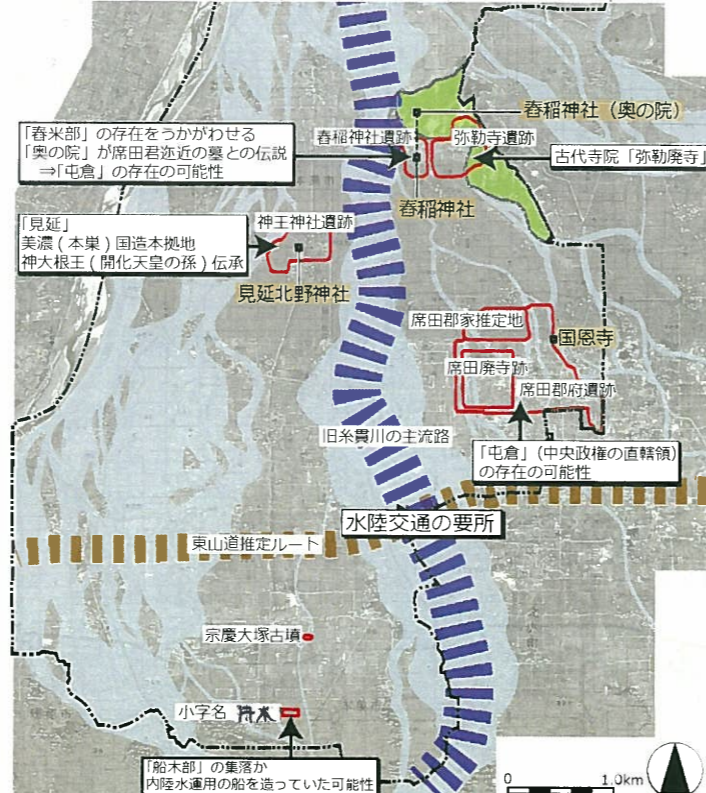


船来山古墳群  
マスコットキャラクター



席田用水

### 【古代の土地利用や機能】



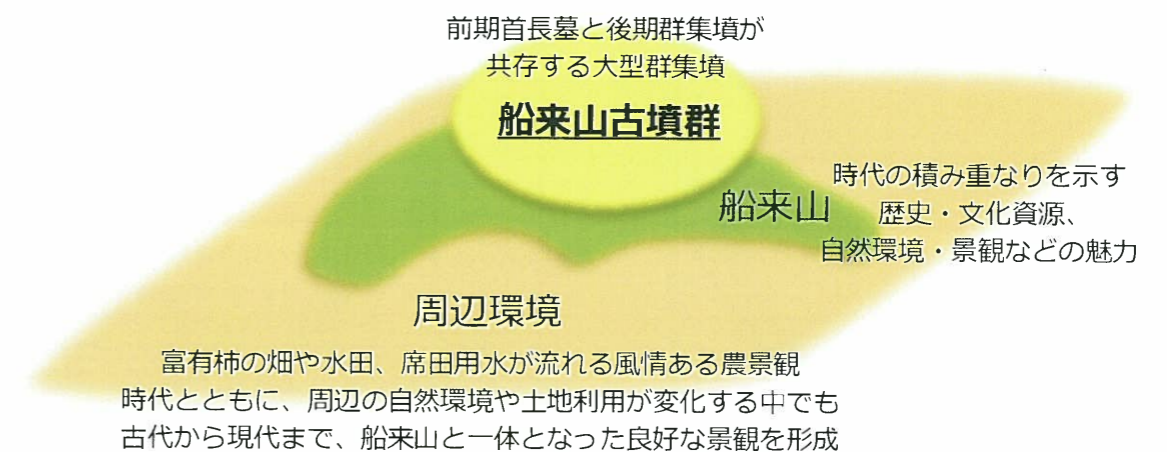
## コンセプト

船来山古墳群の保存・活用にあたっては、古墳群としての本質的な価値のみならず、歴史・文化を伝える資源、自然環境としての資源など魅力のつまった船来山、そして周辺のさまざまな時代を伝える資源とともに現代の地域特性である富有柿などの風情ある農景観を活かしていきます。

さらに、先人の生活や自然との共生の知恵や技を体感する楽しみを提供し、新たな交流を生み出す場となることを目指します。

先人の想い、知恵、技を体感できる

## 「古代と未来のかけ橋 船来山古墳群」



## 基本方針

- ① 船来山古墳群の価値の将来にわたる保存管理**
  - 国史跡として指定を目指します。
  - 調査・研究を継続し、古墳群の全容解明に努めます。
- ② その他の視点に基づく価値との一体的な保存管理**
  - 古墳をとりまく自然環境や景観、歴史・文化資源との一体的な保存管理に努めます。
- ③ 古墳の価値や時代の姿を体感できる環境整備**
  - 古墳群の特徴や価値が理解しやすい古墳の展示・公開手法を検討します。
  - 眺望や和歌に詠まれた船来山の景観再生など、魅力的な環境の整備を検討します。
  - 調査・研究成果を随時発信し、古墳群の特徴や魅力の積極的な広報活動を行います。
  - 古墳群について楽しく学べる体験プログラムやイベントを開催します。
- ④ 周辺地域と連携した整備・活用**
  - 周辺の史跡等資源と連携し、まちづくりや観光振興の充実を図ります
- ⑤ 地域の参画に基づく持続可能な維持管理・運営**
  - 市民・民間・専門家・行政等と連携し、維持管理や運営を行います